

地域を支える小児在宅歯科医療ネットワーク

小方 清和

東京都立小児総合医療センター 小児歯科

小児専門病院での歯科医師として勤務する中で、入院中の患児に対し、「在宅医療への移行に先立ち、口腔ケア方法をご家族に指導いただきたい」と小児科医から依頼を受けることがあります。しかし、病院の規模に比べ、大多数の小児病院は歯科医師や歯科衛生士のメンバーが少なく、病院内のすべての子どもたちの口腔ケアを実施し、退院までに指導することは極めて困難であるばかりでなく、退院後の歯科受診はどうすべきかと悩むところでもあります。退院前に気管内吸引、経管栄養、人工呼吸器などの説明をするのと同じように、口腔内のケア方法について、病院歯科がご家族に説明することが良いことだと私は当初考えておりました。しかし、むしろ病院歯科が退院前に指導するよりも、ご家庭に訪問する歯科医師や歯科衛生士が、その家庭にあった口腔内のケア方法をご家族と一緒に考えることに意味があると気づきました。また、子どもの成長発達に応じた変更を加えていくという極めて重要な診察が可能であるのは在宅医療の利点であり、訪問した歯科医療従事者（歯科医師・歯科衛生士）でなければできないことでもあります。多職種連携と最近によく言われておりますが、病院歯科と地域で活躍されている歯科診療所との連携さえもまだよく取れていないように私は感じておりました。

そこで、東京都多摩地区に住む在宅重症児（者）に対する口腔管理と摂食嚥下機能を支援することを目的に、多摩地区の重症児（者）歯科治療が可能な基幹病院と、東京都多摩地区の20歯科医師会に所属の歯科医師の先生方に呼び掛けて、2015年1月に「多摩小児在宅歯科医療連携ネット」（たましょう歯ネット）を立ち上げました。

「障害児の診療を行った経験がない中、重症児の訪問診療を行うことはとてもできない、考えたこともない」と、受け入れない歯科医療従事者が大多数です。「たましょう歯ネット」は、このような発想を打開し、小児歯科や障害者歯科が専門ではない歯科医療従事者を対象に、地域の在宅小児患者への在宅歯科医療の準備と実践を推進し、患児、さらにはご家族のQOL向上を促す一助となる情報を提供し、多職種との連携をサポートすることを目標としています。今回はその活動内容についてお話をいたします。